

平成30年度の活動の振り返り

【原発問題に関する調査・議論を開始】

時期	活動内容	方向性
4月	理事会 当年度の事業計画について意見交換	「原発問題についても、賛否ということではなく生活者目線で議論を進めてはどうか」という意見から、調査研究を開始
5～6月	各部会・総会 同問題の議論をスタート。総会で事業計画を承認	「核廃棄物」を原発が抱える最大の問題と位置づけ、政策の見直し等も含めて議論
9～10月	現地調査 フィンランド、青森県むつ市の原発関連施設へ	核廃棄物の現地調査として、最終処分場、再処理工場等を視察。他国との比較も含め、わが国の原発問題を再整理
10～11月	各部会・理事会 調査結果を踏まえた論点整理について意見交換	「事実・現実としての原発問題」として論点を整理。委員会の進め方についても意見が出された



六ヶ所原燃PRセンター

平成30年度の活動の振り返り

【「事実・現実としての原発問題」として整理した論点】

原発問題に 突きつけられ ている課題

(1) 核廃棄物の処理の問題

⇒ 核燃料サイクルが行き詰まり、最終処分に向けた議論は停滞

(2) 廃炉の問題

⇒ 運転寿命が迫る中、脆化した原子炉の危険性と膨張する廃炉費用

(3) 資源としてのウランの問題

⇒ 化石燃料同様に有限な上、採掘時の環境負担など

日本が 踏まえるべき 現実的課題

(1) たまる核廃棄物の処分方法をどうするのか？

⇒ 再処理も最終処分も見通せない中、使用済み核燃料の容量逼迫

(2-1) 原発の再稼働はどこまで進められるのか？

⇒ 再稼働のハードルは高く、エネルギー基本計画の行方は不透明

(2-2) 迫る原発の運転寿命に対応できるのか？

⇒ 老朽化が進む中、増設計画は具体化せず今後は廃炉時代へ

平成30年度の活動の振り返り

【議論の中で出された主な意見と、委員会の進め方の方向性】

主な意見



- 内容は理解できるが、「原発反対」の立場からの論点のまとめ方に見えてしまう。
委員会を立上げて広く参加者を募る意味でも、**論点をもっと広げて良い**のではないかと？
- 逆に、原発を推進する理由についても、深掘りしてみてもどうか。
エネルギー政策上の必要性からも考えた方が、問題を提起するにも説得力が高まる。
- 原発推進理由の一つは、やはりCO₂対策であろう。
代替手段として有力な**再生可能エネルギーについても研究を進めて**はどうか。

進め方の 方向性

- 視点を広げ、日本のエネルギー政策が踏まえるべき内容について、論点整理を行っていく
- その上で、今後の政策動向に大きく関わる原発や再生エネを中心に、調査研究を継続
- 活動や発信を通じて、生団連が国民的議論の喚起を図っていく